

「これからの台湾オーガニック・マーケット」

歐 元韻

今年の6月30日、台湾の經濟部国際貿易局および台湾貿易センター台北本部（TAITRA）では、台湾の有機食品業者7社を招いて、日本をはじめとした13か国130名のバイヤーを対象に、YouTubeで「2020年台湾オーガニック食品オンライン発表会」を開催し、台湾産の有機食品をアピールしました。

台湾では2016年以来、有機栽培及び環境にやさしい栽培法による農地拡大を推進してきました。2019年4月の時点で、同栽培法による農地面積は、農地の総面積の1.5%を占めており、さらに今年5月30日施行の「有機農業促進法」に基づいた予算編成で、有機農業を積極的に後押ししています。これにより2019年は台湾の有機元年とも言われています。また政府は、台湾産の有機食品の海外への輸出の拡大を目指しており、有機食品の輸出入に関する相互間協力促進にも力を注いでいます。

＜オンライン発表会に出店した台湾企業7社＞

（出典 台湾經濟部国際貿易局 HP）

企業名	製品
統百食品 Tong Bae Food Co.,Ltd.	有機米を加工したおかきやスナック菓子等
三鷹食品 San Ying Foods Co.,Ltd.	有機黒豆天然醸造醤油
貫金食品 Guan Jin Food Co.,Ltd.	有機ナッツや黒白きくらげを使った天然ドリンク
大花農場 Grand Blossom Grange	有機栽培の食用バラを加工したローズジャム等
東豊拾穂 Dongfon Organic Rice Farm	有機の白米、雑穀米
佳芳有機 Jiafang Organic Tea Garden	有機の紅茶、ウーロン茶、緑茶
源順食品 Yuan Shun Food	有機玄米パスタ及び菓子類



＜日台間での有機食品に関する輸出入協力促進＞

昨年10月30日に、日本台湾交流協会と台湾日本関係協会は、「公益財団法人日本台湾交流協会と台湾日本関係協会との間の有機食品の輸出入に関する協力の促進に関する覚書」についての署名が行われました。これにより今年の2月1日以降、日本又は台湾の有機制度による認証を受けた有機農産物等には「有機」等と表示し、相互の輸出入が可能となりました。

かつて台湾では日本の有機食品制度の認証を認めておらず、輸出の際には、欧米諸国等による認証が必要でした。そのため有機食品の認証はあきらめ、一般食品として台湾への輸入手続きをした業者は、食品成分表示内の「有機」という文字を、黒マジックペンで塗りつぶしたなどの苦労話もありました。

今回、日本の有機 JAS 認証が認められたことで、日本の事業者は日本の認証のみで有機食品として台湾に輸出・販売することが可能となりました。そして台湾の有機食品も、日本と同様に台湾の有機食品制度で認証を受けた有機食品を日本に輸入販売できるようになり、有機 JAS 以外の認証を取得するためのコストを負担することなく、輸出できるようになりました。



【台湾有機ロゴ】



【有機 JAS マーク】

＜台湾のオーガニック市場のこれから＞

この度の日台間における認証済み有機食品の相互輸出入が認められたように、台湾ではオーストラリア、ニュージーランド、カナダ、アメリカとも同様の合意に至り、現状22か国の有機食品が台湾に輸入されています。他の国々でも、相互間での有機食品輸出入認証を実現すべく、動きが活発化しております。ちなみに日本の農林水産省に相当する農業委員会からは、今回の試みで、台湾の有機食品商談成立第一号は、日本から発注された有機ゴマ・パウダーだったことが発表されました。

これを機に、台湾の有機食材やオーガニック・マーケットに、より関心を持っていただければと思います。